

研究分野	漁場環境	部名	磯根資源部
研究課題名	渚の環境実態調査		
予算区分	国(10/10)		
実施年度・研究期間	H. 14～16		
担当	仲村俊毅、桐原慎二		
協力・分担関係			

〈目的〉

渚（飛沫帯から水深数mまでの場所）の動植物相を調査し、その現況を把握するとともに、渚域の環境保全を図るための今後の基礎資料を得る。

〈試験研究方法〉

調査線1ラインについて、飛沫帯、潮間帯、水深2m以浅、水深2～4mに区分し、潜水採取により、水産動物や海藻(草)などの分布実態を調査した。

〈結果の概要・要約〉

平成16年度は、東通村、六ヶ所村、八戸市、階上町の4市町村で、春(5～6月)及び秋(9～10月)の2回調査を実施した。これにより、県下一円における春及び秋の調査全てを終了した。

〈主要成果の具体的データ〉

3カ年の調査で各地区に出現した動植物の種類数は下表のとおりである。なお、ここに挙げた種類数は採取されたもののみとした。

植物は全体に春に多く、秋に少ないという季節変化があり、特に陸奥湾で著しい。しかし、動物にはそのような変化はみられず、海域によっては秋に多くなっている。

表 各地点出現動植物種類数 (春)

海域	調査地名	植物	動物
日本海	岩崎村沢辺(岩礁域)	15	15
日本海	深浦町田野沢(岩礁域)	22	15
日本海	車力村車力漁港(消波ブロック、砂礫)	10	15
日本海	小泊村下前(岩礁域)	23	15
津軽海峡	今別町高野崎(岩礁域)	20	23
陸奥湾	平内町大島(岩礁域)	18	24
陸奥湾	横浜町大豆田(転石、礫)	11	30
陸奥湾	川内町川内(岩礁域)	8	14
津軽海峡	佐井村佐井(岩礁域)	20	18
津軽海峡	風間浦村易国間(岩礁域)	23	30
太平洋	東通村尻屋(岩礁域)	20	18
太平洋	六ヶ所村泊(岩礁域)	18	19
太平洋	八戸市鮫浦(岩礁域)	15	13
太平洋	階上町小船渡(岩礁域)	19	14

陸奥湾では、植物種は外海域に比べて少ないこと、外海域では津軽海峡が植物、動物ともに出現種は最も多い等の特徴がある。日本海は津軽海峡、太平洋に比べて植物、動物ともに少ないが、これは砂礫域の車力を含むため、車力を除くと他海域とは大きな差はなくなる。

表 各地点出現動植物種類数 (秋)

海域	調査地名	植物	動物
日本海	岩崎村沢辺 (岩礁域)	13	18
日本海	深浦町田野沢 (岩礁域)	18	15
日本海	車力村車力漁港 (消波ブロック、砂礫)	7	11
日本海	小泊村下前 (岩礁域)	15	29
津軽海峡	今別町高野崎 (岩礁域)	15	18
陸奥湾	平内町大島 (岩礁域)	7	14
陸奥湾	横浜町大豆田 (転石、礫)	6	16
陸奥湾	川内町川内 (岩礁域)	5	16
津軽海峡	佐井村佐井 (岩礁域)	11	21
津軽海峡	風間浦村易国間 (岩礁域)	18	23
太平洋	東通村尻屋 (岩礁域)	18	20
太平洋	六ヶ所村泊 (岩礁域)	15	20
太平洋	八戸市鮫浦 (岩礁域)	17	22
太平洋	階上町小船渡 (岩礁域)	13	18

〈今後の問題点〉

特になし。

〈次年度の具体的計画〉

平成 16 年度で事業終了。

〈結果の発表・活用状況等〉

調査で得られた水産動物や海藻(草)類について、現場での生息(生育)状況や標本の写真を作成、県のホームページに公表している。

ホームページアドレスは以下のとおり。

<http://www.pref.aomori.jp/suisan/news/toppage030423/index.htm>